

大雨が降り続くとき、内水氾濫と洪水（外水氾濫）がどちらも発生することがあります。一般的に洪水（外水氾濫）の方が浸水の被害が大きいため、**内水氾濫だけを考えて避難すると、洪水が発生した時に安全に避難できないおそれがあります。**また、大雨の際には土砂災害が起きやすくなるので、身の回りと避難経路上にある土砂災害警戒区域にも注意しましょう。

2階以上へ
垂直避難

お住まいの学区の緊急避難場所

〇〇小学校

水害と土砂災害の危険性の低い地域の親戚、友人宅など安全な場所

記入欄

1 浸水が始まる前に避難をしよう

事前に避難を！

2 川や橋には近づかない！

3 御薄やマンホールには注意！

4 車での避難はひかえよう！

5 高齢者や障がいのある方などの避難の手助けを！

6 1人での避難はひかえて周囲の人に声をかけよう

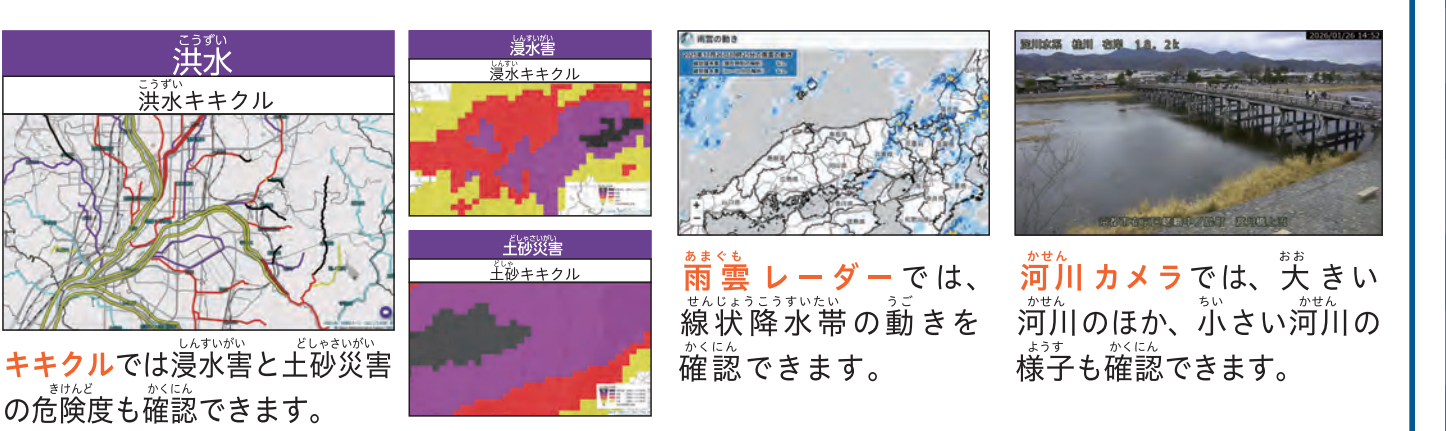
7 動きやすい格好で避難をしよう

- 荷物をまとめて片手を自由に
- 長靴は厳禁！
- ステッキや傘で足を確保

避難場所なくても、近くの高くて頑丈な建物に避難しましょう

自宅の 2階以上で斜面から離れた部屋に避難しましょう

線状降水帯による集中豪雨など、予測が難しい大雨によって発生する内水氾濫や小さい河川の洪水が増えています。こうした水害では、これまでと同じ情報収集だけでは避難が間に合わないことがあります。キキルや雨雲レーダー、河川カメラの情報を活用して、命を守るための避難行動をとりましょう。(洪水氾濫の場合は、洪水キキルを見て下さい。)



お年寄^{としより}りや体^{からだ}の不自由^{ふじゆう}な人^{ひと}、幼^{おきな}い子^{こども}供^{ども}、
妊^{にんしん}娠^{ごん}している人^{ひと}、外^{がいこく}国^{こく}の人^{ひと}には、周^{まわ}りの
人^{ひと}が声^{こゑ}をかけて、安^{あん}全^{ぜん}確^{かく}認^{にん}や避^{ひん}難^{なん}行^{こう}動^{どう}
で助^{たす}け合^あいましょう。